

武蔵野市すくすく泉事業採択・評価委員会

(令和3年度)

議事録

日時：令和4年2月22日（火）

場所：オンライン開催

武蔵野市すくすく泉事業採択・評価委員会（令和3年度）

○日 時 令和4年2月22日（火） 午後6時～午後7時30分

○場 所 オンライン開催

○出席委員 箕輪委員長、吉田副委員長、松田委員、鵜川委員、藤野委員、勝又委員

○事務局 子ども家庭支援センター担当課長、子ども育成課長ほか

1 開 会

【事務局】

皆さんこんばんは。私はこの委員会の事務局を務めます、子ども子育て支援課子ども家庭支援センター担当課長の小林と申します。昨年の4月からこちらの担当になりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

皆さんおそろいのようなので、開会に先立ちまして、事務局がご説明を申し上げます。初めに、本日の会議の記録用に録音させていただいております。あらかじめご了解をお願ひいたします。

それでは、会議の前に配付資料についてご確認をお願ひいたします。

〈資料確認〉

【事務局】

なお、本委員会の吉田委員におかれましては、ご都合により一時お休みされておりましたが、本日の会よりご参加いただけることとなりましたので、よろしくお願ひいたします。

それでは、吉田委員、一言お願ひできますでしょうか。

【委員】

1年にわたって本務校の業務との関係で、委員のほうをお引き受けすることができませんでしたが、本日よりこの委員を務めさせていただくことになりました。改めまして、よろしくお願ひいたします。

【事務局】

それでは、これ以降の進行につきましては、箕輪委員長にお願いしたいと存じます。委員長、よろしくお願いいたします。

【委員長】

皆様、こんばんは。よろしくお願いいたします。

先ほど事務局のほうからご案内いただきました吉田委員に、引き続き副委員長をお願いしたいのですが、皆様よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

【委員長】

ありがとうございます。

では、吉田委員に副委員長へのご就任をお願いいたします。

それでは、本日は、皆様のお手元に送付しております次第に沿って進めさせていただきます。

まず、事務局のほうにお尋ねですけれども、きょうの会議の終わりの時間についてお知らせいただけますか。

【事務局】

皆様への通知では、午後7時30分とさせていただいております。

【委員長】

では、午後7時30分ということですので、皆様、スムーズな進行にご協力いただけましたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

2 議事

- ・「令和3年度すくすく泉事業実績（見込）について」
- ・「令和4年度すくすく泉事業計画（案）について」

【委員長】

では、議事に入りたいと思います。「令和3年度すくすく泉事業実績（見込）について」、「令和4年度すくすく泉事業計画（案）について」。まず、事務局のほうから説明をお願いいたします。

【事務局】

それでは、審議の進め方についてご説明いたします。次第の進行表をご覧ください。

これから、事務局より令和3年度補助金の執行状況及び令和4年度の収支計画について

ご説明いたします。その後、「いずみの会」が会議に参加します。施設長ほか団体の皆様に自己紹介をしていただいた後、本題に入ります。

まず、団体から、資料2から4によって「令和3年度事業実績の概要」、資料5、6によって「令和4年度事業計画の概要」を説明していただきます。また、委員の皆様にごいただいた質問については、メールでお送りした資料7「委員事前質問一覧表」のとおりです。既に団体より回答をいただいておりますので、本日の説明は省略とさせていただきます。

その後、各委員の方々から団体に対して質疑を行っていただきます。質疑は午後7時10分ごろまでを予定しております。質疑の後、団体は退席いたします。

団体が退席した後、審議を行っていただきます。ここでは、今年度の補助事業が適切に実施されているか否か、次年度の事業計画について問題や課題がないかを審議していただきたいと思っております。また、必要な意見を付すべきか否かという点についても審議していただければと思っております。

それでは、令和3年度の補助金の執行状況についてご説明します。資料4「令和3年度実績・すくすく泉事業資金収支計算書（見込）」をご覧ください。

令和3年度は当初予算に基づき、市より1,304万2,000円を年4回に分割して交付しました。また、「その他補助金収入」欄に別途30万円の補助金収入がございます。こちらは新型コロナウイルス感染症対策として、マスクや消毒用のアルコールの購入等に使用できる資金を市から追加で交付したものです。

市が交付した補助金に対する実績見込みは、記載のとおりでございます。補助金の対象である、ひろば事業及び一時預かり事業の収入は1,895万6,023円、支出は1,718万9,046円、収支差額176万6,977円を見込んでいます。この差額は、100万円を超える76万6,977円については市に返還となり、100万円については令和4年度に繰り越す見込みです。

続いて、資料6をご覧ください。「令和4年度すくすく泉事業資金計画書（案）」と記載されている資料でございます。

令和4年度に市が交付する補助金は1,437万3,000円です。また、その他補助金等として別途30万円の収入がございまして、内訳は説明欄に記載のとおりとなります。補助金の対象であるひろば事業及び一時預かり事業の収入は2,061万5,596円、支出は1,961万5,596円を見込んでいます。

事務局からの説明は以上でございます。

【委員長】

それでは、いずみの会に入場していただきます。

<いずみの会入室>

【委員長】

すくすく泉の皆様、こんばんは。よろしくお願いいいたします。

まず、自己紹介を簡潔に願いいいたします。

【いずみの会】

皆さん、こんばんは。理事長の近藤和義でございます。いつもお世話になりまして、ありがとうございます。

先日、初めて市の監査委員から事業監査と会計監査を受けました。いずみのスタッフの皆さんがきちっとやっているの、大丈夫だろうなと思いつつも、相当緊張して臨みました。その結果、これはかなりよろしいだろうという評価をいただきまして、ありがとうございました。評価委員会の皆様とは違った意味で、監査委員というのは事業監査も会計監査もしっかりやられる。つまり、評価のポイントが違うというのがよくわかりました。

いずれにしても、今日は皆さんと一緒にお話をさせていただき、代表する上田と関がしっかりやっているの、私は本当に大船に乗った気持ちでおります。大船に乗ると沈んでしまう体形をしておりますが、でも、しっかりと皆さんと一緒にやりたいなと思います。どうぞよろしくお願いいいたします。

【いずみの会】

近藤と一緒に理事をやっております種田と申します。よろしくお願いいいたします。

【いずみの会】

すくすく泉全体施設長の上田です。よろしくお願いいいたします。

【いずみの会】

保育施設長の関です。よろしくお願いいいたします。

【委員長】

それでは、いただいている資料2から資料6までの説明をお願いします。この後、質疑応答の時間がありますので、説明のほうを簡潔にさせていただけたらと思います。なお、資料7の事前質問一覧については、ご記入いただいたものを各委員に送付しておりますので、特にご説明は不要です。

それでは、よろしくお願いいいたします。

【いずみの会】

それでは、事業実績報告、資料2からご説明いたします。「事業目的」、「事業内容」、「新型コロナウイルス対応」については記載のとおりです。

「事業効果・波及効果」からお話ししたいと思います。

まず、ひろばです。新型コロナウイルス感染拡大の第1波、第2波のころ、日常が失われることに不安を抱いた親子が多くいたと思いますが、これだけコロナ禍が長くなると、出産から今までずっとコロナ禍である親子が増え、これが日常になってしまっている様子が見られるようになってきました。同じぐらいの子どもの親とあまり情報交換しないことや、他人の子どもに触れるようなことがなくて、また、自分の親とのかかわりも薄かったりすると、そういう状況なのに、これが当たり前となっているために何が困り事かよくわからない。特に実際不安を感じたり、困ったりしてないような感じにも見えたりします。

そんな中で、本当に困ってないならいいんですけども、お渡しした資料にも具体例は書きましたが、だっこひもの使い方が何だかちょっと変だったり、いろいろあれっと思う、今までにない、ちょっと奇妙なことが増えています。これが私たちの新たな心配事になった令和3年度でした。

直接来るのが心配な方や、多くの親に知ってもらいたいような内容の講座はオンラインを活用しました。一方、一回でもいいからひろばに足を運んでもらい、ほかの親子の様子を見たり、リアルに人とかかわってほしいという思いで、そのきっかけになるようなプログラムを幾つか企画しました。

「はじめてのひろば」は予約制で、初めて来る妊婦さんや0歳児さん向けに、ひろば利用の仕方を伝えるという内容です。参加者全員が初めて来る人というのも安心なのか、毎回これは盛況です。布遊びの布をプレゼントして、その場にいる利用者さんたちみんな布遊びをしたりして関係をつないだりしています。

また、包括支援センターの立ち上げにより、定期的に保健師さんが訪問してくれるようになって、専門的な相談がスムーズにできるようになりました。

また、「パパ講座」や、父親たちが育児を楽しめる企画もふやしました。在宅ワークなどで子どもとかかわる時間が増えた父親も多くいて、もっと知りたいとか、参加したいというニーズが見えてきたことを受けての企画です。スキルアップしてもっと子育てに積極的にかかわりたい父親たちが実は結構いて、好評でした。その後、ママたちからも、家で、習った遊びでパパが遊んでたというふうなうれしい反響もありました。

「こらぼのコミセン親子ひろば」は、定員が埋まらないことも多かったので、後半です

が、当日ツイッターで呼びかけたりして、何人か来てもらったりしました。

続いて、一時預かりです。コロナ禍でも一時預かりはあまりニーズが変わらなくて、むしろ、定員をこちら側が減らしたり、時短をしているせいで、予約はすぐに埋まってしまっているような状況です。ただ、家族も含めての体調不良や濃厚接触者がいるなどの場合は預かれないことにしていますので、キャンセルも多めかなというところなんですけれども、そもそもの役目としても親の傷病による預かりはできないということで、なかなか心苦しいところでもあります。

利用する理由ですけれども、皆さんに一々聞いてないので実際のところはわからないんですが、コロナ禍でいろいろな集まりがあるところで人数制限されていたりして子連れで行けなかったりとか、人混みに行く用事があるときに、子どもを連れていきたくなかったりという理由が多いように感じます。

ひろば、一時預かりの各項目の実績の数字については資料3をご覧ください。

次に、保育です。

【いずみの会】

小規模保育事業から報告します。

昨年度までと大きく違ったのは、保育士体制が常勤保育士3名になったことです。今まで常勤保育士は1名で、しかも6時間だったりという時期もあったんですが、去年、6時間と8時間の保育士さん2人になり、6時間の保育士さんが1人退職されたので、ことしは8時間の保育士さん2人、プラスもう1人、11月から入ってくださって、保育士3名が軸になりました。それにより0歳から2歳児という異年齢10人を1クラスにして、子どもたちを保育者全員で見ているような体制にしました。今日から明日へと子ども一人一人の保育がつながっていくようになりました。

また、見守り保育というのを意識してきました。今までは流れで保育を進めていくというようなことがあったんですが、この子はこれをやりたがっているから、これをやり切るまでやらせてあげようみたいに、こちらで遮ることはなく、満足するまでやり切れるというような保育の流れ、それに合わせて保育者のつき方も柔軟にして対応してきました。

また、保護者との連携については、常勤がいることで日々の様子につながりとして伝えられるので、とてもスムーズになったと感じます。また、こういうおたよりを出したんですが、乳幼児期という人生の土台で大切にしたいことを共有してきました。

これは食事に関してのおたよりなんですけど、自分でおなかいっぱいということがわかる

とか、自分で食べたいという意欲を育てようとか、好き嫌いは皆あるのでそれを尊重しましょうみたいな話とか、そういうようなわかりやすいところから保育の姿を伝えて、保護者と、ここは大事にしましょうということを共有するようなおたよりをつくってきました。

保護者に貸し出しする「おうち文庫」というのもつくりまして、子育ての本のほかに、親子で楽しい時間を過ごせるような絵本も用意しました。

また、研修では「すくすく泉公園の遊びを豊かに深く」というテーマにして、子どもが遊ぶ姿を記録しながら、年間を通して子どもが経験していることを分析してきました。わかったことは、自然の中で季節によってさまざまなことを発見して、五感を通して体験しながら、感性や表現力が育っているなということです。虫との出会いとかも夏はいっぱいありますし、雪とか霜柱をチョコレートにするとか、その季節によってたくさんの遊びが公園には詰まっていて、それを子どもがよく発見するし、それを遊びによく取り入れていくということに感心しました。

また、歩行がしっかりとする時期なんですけど、外を歩くだけで、でこぼこしているので体幹が育って、雪の上、葉っぱの上、いろんなどころを歩いて、すごく歩行の力がついたとか、だんだん歩行がしっかりしてくると、走るとか、渡るとか、よじ登るとか、いろんないろんな動きにチャレンジしているということに気づきました。それもお兄さん、お姉さんのおもしろそうな遊びをちっちゃい子たちが見ている、やってみたいと思うらしくて、それをある時期になると、見てまねていくというようなつながりがあるんだねということを確認しました。

また、特別支援教育をテーマに園内研修もしました。感覚について、障害児のみならず、一人一人が違うんだなということを尊重して、大人も子どもも尊重されて、子どもを変えるのではなく、環境とか大人のかかわりを工夫してみようというような研修をしました。

1年を終えてみて、子どもたち一人一人の心と体の育ち、かかわる力の育ちを実感しています。毎月ご指導いただくアドバイザーの先生からも、「今年度の子どもたちの成長は群を抜いていました。先生方の懐も深く広がったように見受けられました」というコメントをいただいています。

課題としては、労災が2件、子どもの通院が2件ありました。子どもがやりたいことに挑戦できるというのも大事にしたいんですけども、それに伴う危険もあるわけで、一人一人の力を見極めて、リスクを予想しながら保育をしていく力がスタッフに求められます。小さなヒヤリハットとかいろいろなところから、要因を話し合っ、環境改善や子どもの

力の把握、スタッフのかかわり方の精度を上げて、大きな事故を防ぐ対応をしていきたいと思っています。

また、もう一つの課題としては、A型の移行に向けて早朝スタッフの確保というところ
です。

続けて、「達成目標に対する評価・反省」について、3事業まとめてお話しします。

大体レジュメにあるところですが、去年、ことしと、3事業の合同の行事などがしにく
くて、また、職員の行き来も以前より減らしているの、なかなか連携しにくいという
ところは感じていますが、幾つかの合同企画も行いました。

レジュメにあるような人形劇とかクリスマス、お正月遊びを公園を利用して行ったり、
ベビーマッサージとか、「はじめてのひろば」と「保育所体験・赤ちゃん触れ合い体験」
をセットにして、保育園に見学に来たお母さんたちをひろばにつなぐというような、いろ
んなところで連携できるようなことができました。

また、「多様な子育てに対応できる施設にする」では、自分の子どもがちゃんと育っ
ているのかという不安を抱える方、それは保育にいても、ひろばにいても、実際にそうい
うことを感じる保護者の方もいらっしゃる。あと、育児困難家庭や外国人。本当に多様な家
庭の子育てを支えていくという機能がここにはいっぱいあるなと思います。セーフティー
ネットじゃないですが、ここが関係をつくってつながることで、専門機関につないでいけ
るという中間的な役割を果たしているんだなというのを強く感じました。

その後ですが、「切れ目のない支援の一翼を担う」では、妊婦さんになかなかつながり
にくいという課題がずっとあったんですが、保健師さんが定期的にひろばに入ってくだ
さることになり、いいこともちょっとずつふえているなという感じです。

それから、「地域とのつながりについて」です。最近の話で、小学校の子どもたちがお
菓子のごみをベンチにいっぱい置いていっちゃったという事件がありまして、それを小学
校のほうに、こういう現状があつてというお話をしたところ、それを小学校の校長先生が
オンラインで全校のみんなに話をした。

そしたら、ここの公園に前、お花を植えた子どもたちが、公園にしばらく行ってなかつ
たんだけど、自分たちがごみ拾いをしなくちゃとか、ごみを置いていった女の子たちが、
悪かったと謝りに行かなくちゃとかいう話があつたり、次の日に小学生が自主的にごみ拾
いをしていたり、ペットボトルが置きっ放しになっているのを見て、「僕が捨てましょ
うか」みたいな話が別の日にあつたり、悪いことがいいことにつながっていくような形で、

地域で子どもたちを見守るとか、地域の公園で小学校と私たちがつながる、そんなことが深くなってきているなと感じます。

あとは、武蔵野市の第一中学校の2年生を対象に、うちも職場体験が来るんですが、今来れないので、私が中学校に行って保育士の仕事について話をしてきました。そうする中で、子どもと触れ合う経験が少ないまま大人になっていくんだなという現状を目の当たりにしました。ちっちゃい子と遊んだことがあるか聞くと、3分の1ぐらいしか手が挙がらなかったり、そういう状況でそのまま大人になっちゃうんだなと感じて、いろいろな保育の話とか子どもの話をしました。

生徒の感想を見ると、「小さい子はうるさくて嫌いでした。でも、今日の話聞いて、理解が少しよくなりました」みたいなことがあって、そうやってちょっとでも感じてもらったのはよかったなということと、実際に中学生と子どもがかかわる機会というのがつくれたらいいのになと感じました。

【いずみの会】

次に、「令和4年度以降の見通し」について、まず、ひろば、一時預かりをまとめてお話しします。

引き続き感染防止対策にも努めながら、子どもの発達や親たちの心のケアを中心に、人と人とのつながりを大切にしていきたいと考えています。具体的には、この後、事業計画でもお話ししますが、育児参加促進のために父親も母親も育児が楽しくなるように、コミュニケーションと学びの機会を増やそうと思っています。また、悩みがスムーズな支援につながるように、スタッフの間でも情報共有を大切にしていきます。ひろばも一時預かりも同じ場で、両方を利用されている方も多いので、区切りなく見守り体制をとっていきます。そのためにも今年度も新たに、ひろばスタッフ2人が保育士資格を得ましたが、保育士だけではなく、発達支援の勉強や救急救命などもブラッシュアップしていきたいと思っています。

保育のほうをお話しします。来年度からA型に移行します。規定数で全員が保育士というのがA型ですけども、そちらに移行したいと思っています。それに伴う早朝保育を担える保育士の採用、保育士資格の取得を進めて、スタッフに無理ないシフトにしていきたいと思っています。また、一人一人の育ちに沿った保育の充実を図りたいと思います。

【いずみの会】

それでは、会計報告です。

令和3年度は表にありますように、約3万5,000円ほどの赤字なんですが、内訳で小規模が80万強の赤字、ひろば事業が76万ほどの黒字と、ちょっといびつになっております。小規模のほうが大きいのは、先ほど言いましたように、4月から常勤を採用した。これは見通しでは見ていたんですが、A型移行に従ってどうしても要るだろうということで、11月からもう1名常勤を採用して、最終的にはその常勤の人件費が丸々赤字になった感じになりました。

一方、ひろばですが、前年度と比べて補助金を約80万ぐらい上げていただいたことが大きくて、それなりに人件費等の負担が軽減できたんですが、最終的には一時預かりの収入は少ないけども、非常に人の効率もよくて76万ほどの数字が上がっています。ただ、内訳の中にはコロナ補助金の前年度の残りがありますので、それが25万ぐらい。ですから、今年度としてはひろば事業は約50万ほどの黒字ということで、全体的には出っ込み、引っ込みはありましたが、大体落ちついた感じだったかと思います。

【いずみの会】

引き続き、資料5の事業計画のほうに進みたいと思います。

「運営理念」等に関しては記載のとおりです。

「令和4年度に力を入れて取り組みたいこと」についてお話しします。

まず、ひろばのほうです。先ほどの事業報告から引き継いでいくんですが、コロナ禍がしばらくまだ続きそうだとすることを想定して、感染防止対策をしつつ、できるだけリアルでひろばに出向いてもらう工夫を続けていきたいと思います。親子同士がかかわるきっかけづくりや、配慮が必要な子どもとその親が、気兼ねなくひろばや一時預かりを利用できるように、当事者とほかの利用者さんの相互理解を深めていくこと、また、父親の育児参加を支えるプログラムを中心に行いたいと思っています。また、内容によっては多くの方へ知識や情報を提供するために、SNSもずっと活用していきたいと思っています。

包括支援の考え方から、ほかの子育て支援施設との連携や、専門機関、助産師さん、保健師さんなどの専門職との連携を深めて、スムーズな子育て支援をしていきたいと思っています。

具体的には、先ほどお話しした「はじめてのひろば」プログラムの継続、それから月に2回、父親も参加しやすい土曜日に、子育てのスキルアップ企画、内容はいろいろ考えて、年間プログラムを今、立てているところです。今上がっているのは助産師さんによるパパベビーマッサージ、お父さんたちがやるものとか、家族で公園を使ってピクニックみたい

なことでコミュニケーションを図ったりとか、手遊び、童歌をみんなでしてみようとか、手づくりおもちゃの会、だっこの講座、家族で学ぶ防災講座などです。

日常のひろばの中では、いろいろなプログラムの継続はするんですが、そこに週に2回ほど、子どもの発達をテーマにしたおもちゃや遊びの話とか、みんなで語り合うというか、テーマトークをする時間をつくろうと思っています。

例えば触感とか刺激の遊びとか、ゆらゆらするバランス遊びとか、みんなで遊びながら、その意味について話していくとか、学んでいくみたいなきっかけづくり。例えば夜泣きに困っているんだとか、このひろばではよく見ますが、人のおもちゃを取ってしまうみたいな話とか、お母さんたちでテーマトークをしてみたらおもしろいかな。話すきっかけがあるということと、そこから悩み相談というのが生まれてきたり、お互いのことを知れて、それでサポートし合えるようになっていたり、話すことで、そこからちょっと深い話が出てきたら、先ほどの専門職につなぐような流れもつくれるかなというふうに考えています。

次に、一時預かりです。一時預かりは、引き続き親子が安心して利用できるように、スタッフの質向上、スタッフ同士のコミュニケーションを大事にしていきたいと思っています。また、定員を5人から3人に減らしていることで、ほとんど一対一で丁寧な預かりをすることができますが、そういう中で知り得た親子の状況とかについては、個人情報取り扱いのランクをつけて、情報共有をして、次に預かるスタッフに伝えたり、場合によっては、先ほどのようにひろばも共有して専門機能へつないでいたりもします。時短と人数制限については、コロナの様子を見ながらしばらくは続けていくと思っています。

【いずみの会】

保育からも、今までと違うことについて絞ってお話しします。

今までと大きな違いは、先ほどもお話ししましたA型に移行することです。体制をしっかり整えたいと思います。幸いにも、早朝に入ってくれるという採用希望者があられ、これから面接です。新年度はこういう新しい方も入れたチームとして、子どもの気持ちに寄り添って、見守る保育というのも継続していきたいと思っています。

そのためにも日々の振り返りをするふりかえりミーティングとか、テーマを持った園内研修、アドバイザーの先生との会議などで、保育していてさまざまに思いを感じるんですが、それをフランクに出し合って話し合って、試行錯誤しながら一人一人の子どもの成長に合わせて保育を積み重ねていきたいと思っています。ここはとても大事にしたいと思っています。

また、保護者との連携では、自我が育つイヤイヤ期の子どもへの接し方に悩む保護者が多いことを感じています。昨年度は日々のやりとりと並行して、おたよりとおうち文庫だったんですけども、今年度はさらに写真を使った掲示などもして、日ごろの姿や、ここで育っていることというのをタイムリーに伝えて、見られるような工夫ができたかなと思っています。

また、防災計画についてですが、防災について昨年度受講した研修をもとに、水道とか電気とかガスが止まってしまって、復旧するまでにかかる時間が思ったよりも長いということがわかったので、それを想定した備蓄品なども見直していきたいと思っています。

その他については、今までと同じような取り組みになるのでご覧ください。

【いずみの会】

次に、「中長期目標」に関しては3事業まとめてお話いたします。

3事業が一つ屋根の下にあるというメリットを生かして、利用者のニーズに合わせて利用できる、このすくすく泉をどういうふうにかかしていききたいかという、例えばうちの保育園に通っている親子が、ひろばで市内の子育て情報を得たり、ひろばのプログラムに参加したりしています。また、ひろば利用の親子が保育行事に参加したり、保育士に専門的な視点でアドバイスをもらったりもできています。いつもはひろばに遊びに来ている親子が、一時預かりを利用することでリフレッシュできたりということもあります。実際に、赤ちゃんのときにひろばを利用されていた人が、うちの保育園に入って保育に通うようになって、卒園したら、その後また、ひろばのコンサートやアートプログラムに参加してくれたりしています。

地域とのかかわりも非常に強い施設なので、近隣の親子ひろばや保育施設、また地域のさまざまな方々、例えば昔遊びが得意な方とか、編み物が得意な方とか、公園のボランティアさんとか、周りにいらっしゃる人的資源というふうになると思うんですが、そちらも大事にして、連携をとりながら運営していこうと思います。親子がこの地域で守られて、安心して育って行って、そのすぐそばにはすくすく泉があって、3事業の機能がいろいろな場面で支えとなれるといいと思います。そして、この親子がやがて支える側となっていくといいなと私たちは思っています。

実際に開所のころの利用者さんが今、「育児用品を使う人いませんか」と寄付しに来てくださったり、元利用者が講座のプログラムの講師をやってくれたり、あとは、一時預かりのスタッフも元利用者さんがなったりというのもあります。そういった思いから、単に

サービス提供の場ではなく、利用者さんも含めてみんなで作ったり、みんなを守る施設になっていくことを目標としています。

【いずみの会】

育児参加の参画方法についてお話しします。

保育については、今までと変わりなく進めていきたいと思います。先ほどのお話のとおり、大事なことをちゃんと伝えて進めていきたいと思います。大事なものは粛々と毎日、その子たちに合わせて保育をやっていくというところなので、特に大きな説明はありません。

【いずみの会】

一時預かりです。先ほども言いましたが、今年度2名が保育士資格を取得しましたけれども、まだ数名目指している者がおります。コロナ禍で、オンラインで気軽に受講できる外部の講座もたくさん今ふえていますので、スタッフたちは自己研鑽を楽しんでやっています。令和4年度も、安心して子どもを預けてもらえるように努めます。

プログラムは、先ほどもお話しして重なってしまうので簡単に言いますが、子どもの発達についてみんなで理解を深めるきっかけのプログラムは、週に2回ぐらいやりたいなど思っていることと、育児参加プログラムは月に2回ぐらい考えています。

また、泉文庫ですが、英語の絵本のコーナーをつくりました。外国人の親の利用も何組か来ていて、読み聞かせを自分の子どもにしてあげたくても、日本語があまり読めなかったりするところがあることを知り、少し置くようにしました。

そのほかは、助産師さん、保健師さん、栄養士さん、保育士さんなどと、気軽に話せるプログラムを継続して、小さな悩み相談や、深い悩み相談への入り口として利用してもらえるようにしていきます。今年度はコロナの関係で断念してしまいましたが、地域の方とつながるきっかけとなる昔遊びとか、コンサートとか、そういったものも令和4年度はできるといいなと思っています。

それから、妊婦さんに足を運んでもらう取り組みはなかなか難しいんですけども、産前産後ケアからの紹介もありますし、保育園で赤ちゃん見学、赤ちゃん体験みたいな企画も考えていて、そういうところに興味のある方もいらっしゃるかなと思って、呼びかけていきたいと思っています。

それから、公園の活用です。公園は保育とひろばの利用者のコミュニケーションの場になっていたり、ほかの保育園の遊び場になっていたり、小学生との交流ができたり、地域の方と言葉を交わしたり、ふらっと立ち寄った親子さんを、「ひろばの中も遊べるよ」み

たいに誘ったりする場になっています。四季折々いろんな自然体験が身近にあるこの環境を生かして、コロナ禍でも安心できるような開放的なデッキで遊ぶこともできますし、レジャーシートの貸し出しもしています。お昼は中では食べられないんですけども、デッキや公園で食べて帰るみたいなこともできるようにしています。それも引き続きやっていきたいと思います。

最後に、「こらぼのコミセン親子ひろば」ですが、予約制や人数制限で少し利用も少なめだったんですけども、とても大きな畳の部屋を利用して、ハイハイする赤ちゃんにはとてもいいところなので、このよさをもっとすくすく泉の利用者さんにも伝えていたり、インスタとかを活用して発信していけたらなと思っています。

続いて、3事業のかかわり方などです。3事業は、コロナ禍でまだ出入り口を分けていますし、保育室とひろばとの直接的な交流の機会は減ってしまっていますが、私が両方の会議に出たりして情報共有を心がけていることと、スタッフ間交流というのは、時間もすれ違っていくんですが、年末に30分の短いオンライン忘年会というのをみんなでやって、来年も一緒に頑張りましょうみたいに盛り上がりたりして、仲よく気持ちがいい空気を保っています。

スタッフがお互いを認め合って、ミーティングなどで意見を出しやすい関係でいることが、何かの折の協力態勢にもつながって、事業も健全に前に進んでいくと考えております。また、毎年、年度末に振り返りの自己評価というのを自分たちで書いて、アンケートみたいなので集めていますが、それをもとに一人一人と面談をしています。そういうところから各自の思いとかを酌み取りながら、次へ生かしていこうと思っています。なるべくスタッフたちがみんな、もやもやを心に残さないような工夫というのも考えています。

また、コロナ禍でも、公園を利用して、保育園の行事をひろばの親子も一緒に楽しめるようにというのも続けたいですし、別の話ですが、防犯・防災については、3事業が連携してどう動くかみたいなことを、利用者さんも一緒に想定訓練を実施します。

スタッフが学びたいテーマを持ち寄って、内部研修というのもしていきたいですし、消防署に救命講習を受けに今年度も行きましたが、来年度もそういったことも受けに行きたいなということも考えています。

保育室で講座をやるときとか、ひろばのスタッフで何かをやるときも、興味があれば、事業を超えて参加できるようにしていますので、そういったスキルアップの機会を大切にしていきたいと思っています。3事業がそれぞれの専門性を軸にしながら、それぞれの利

ユーザーに有益な支援を提供できるように協力し合っていこうと思っています。

【いずみの会】

地域参加と参画の方法についてお話しします。

コロナ禍で地域との直接のかかわりがなかなか持ちづらくなっていますが、計画書の例に挙げたようなさまざまなかかわりができるところから深めていきたいなと思っています。計画書の8ページには、ボランティアの「葉っぱさん」のこととか、中高生のボランティアの受け入れとか、職場体験など、いろいろ書いてあります。

また、こういうイベントでないところでは、公園での小学生との交流とか、あと、小さな子どもと触れ合う機会が少ない現代において、日常的な他世代とのかかわりとなっていますし、小学校とも何かあったときには情報をやりとりできるような関係もできつつあります。地域で子どもを見守るというような関係、つながりを大事にしていきたいなと思います。

あと、日赤保育園の元保育士さんが立ち上げた人形劇団「はじめの一步」さんが短い人形劇を見せてくださっているのですが、さらに活動を広げようというふうに動いておられます。ほかの団体のところでも人形劇を見せるとか、公園を使って、そこで地域とか、私たちだけではなく、いろいろな人に見てもらおうというような活動を広げようとしていますので、応援していきたいなと思います。

また、「地域子育て応援マーク」とか「オレンジリボン」の活動は、今までの活動を継続して、子育てしやすい地域とか、子育てを通して他者を思いやれる地域というようなものの雰囲気づくりとして、引き続き貢献していきたいと思っています。

【いずみの会】

「施設内容・内部体制」については、お手元の資料のとおりです。

【いずみの会】

次に、資料6の令和4年度の事業資金計画についてです。

まず小規模のA型に移行するというので、このA型を安定的に経営・運営するというのが大きなテーマですので、そのためには人の採用というのが避けて通れません。したがって、A型で増える補助金の大半が人件費に回るというような計画でおります。

一方、ひろば事業ですが、先ほど説明がありましたように、新しいプログラムを考えておきまして、それに対する人件費の増または円滑に進めるための経費をしっかりと組みましたので、増えた補助金の分は、しっかりと支出をとって、会計としては全体事業をしっかりと

支えていく方針であります。

以上、よろしく申し上げます。

【いずみの会】

以上です。

【委員長】

ありがとうございました。

それでは、質疑応答に移ります。皆様のほうからご質問をお願いいたします。いかがでしょうか。

【委員】

まず令和3年度の事業報告です。資料2の5ページの下のほうに小規模保育事業の運営委員会の記載があると思うのですが、そこに「セキュリティについては不安を感じている保護者もいる」という記載がある。具体的にどういう不安があって、どのように説明してきたかというのが1点です。

あと、先ほどご説明があった労災2件は、具体的にどういう内容の労災だったのかということと、それに対する対策とか注意点があるのかどうかということ。

もう1点、今後のことで、先ほど説明いただいた資料5の7ページの「上記3事業の相互に関わり方」というところで、一番下に「防犯・防災については3事業が連携した訓練を実施し」とあって、やっているという話を聞きました。

私は、保育のほうも担当しているのですが、今年度、宮城県の登米市で不審者事件があった。園に侵入した男性が逮捕されるという事件でした。保育園では防災訓練や避難訓練をやっている。また不審者訓練というのを民間園も含めてやられている例もあるのですけれども、不審者に対する考え方とか訓練とか、今後の対策についてのご意見を伺いたいと思います。

以上、3点申し上げます。

【いずみの会】

最初の運営委員会であった保護者のセキュリティに関する不安に関してです。まさに宮城県の園に不審者が入ったという事件を保護者の方が聞いて、ここは公園で入ってきやすいし、ひろばに鍵もかからない。ほかの保育園だったら、番号を押すなどのセキュリティがあって入れるみたいになるのに、ここはどこからでも自由に入ってこられるような施設になっている。両方の機能、入りやすい施設というものと、子どもを守るという機能が一

緒にあるというところで、難しい施設だと思うのです。保護者にとってはその施設に入りやすいところが不安ですということがありました。

こちらで説明する内容としては、具体的におたよりで出しましたが、犯罪が起きやすい場所という本があります。池田小の事件の後に出た本かわからないのですが、その中に書いてあったのが、犯罪者がターゲットにしやすい地域というものがあるということです。

イギリスのほうの話も出ていたのですが、見えにくい場所であるとか、人があまりかかわってこない、乱雑で荒れたような場所というのは犯罪が起きやすい。あと、ハード面としては、防犯カメラがあるとか、何かそういうセキュリティをちゃんとやっているか。ハード面とソフト面の両方でセキュリティを上げていくことが大切だと考えますというような話をしました。

この施設は防犯カメラも増設したのですけれども、死角がないように「撮っています」というのをペタペタ貼ったりして、防犯カメラが見ていますよみたいなハード面の対策をしたり、あと、鍵に関しても、すぐにあけられないように内側にくさりをつけた。私たちはすぐ入れるんだけど、知らない人が入るにはちょっと入りにくいようなものにしてみたり、何かそういうところですよ。

あと、不審者かどうかわからない人には声をかけよう。まず声をかけてみて、ここは挨拶されるし、地域の人がいろいろ通っていて、声をかけられるし、どうもやりにくいぞ、知らんぷりのところじゃないぞというようなソフト面のところのセキュリティを上げていこうというような話を実際に保護者の方にはしました。

次に、労災2件についてです。

1回目は、小学生が乗ってくるくる走れる最近はやりのボードがありますね。それに向かって小さい子が横切ろうとしていた。危ないと思って、とめようと思ってスタッフが走っていった。ボードに乗った小学生は子どもをよけられたんだけど、よけたところにスタッフが走り込んできて、スタッフと接触したということで、そこで転倒して膝にけがをしたことがありました。

対策ですが、午後というのは小学生も来ていろいろな遊びをしている。そこに小さい子もいるということで、小学生の遊びも、ぐるぐる回るという動線を確保してあげないと、小学生も安全に遊べない。私たちはそこに入らないようにする。その動線をちゃんと確保できるエリアで遊ぼうよという対策を立てました。

2件目ですが、砂場に穴があいていた。そこに保育士が間違えて、バランスを崩して、

穴に足を入れてしまって、しゃがむみたいになったのですが、そのときに足首をひねったそうなんです。そのときはちょっと痛かったらしいけど歩けたし、普通に仕事もできたと思っていたら、家に帰ってから腫れ出して、パンパンに腫れてきた。それでお医者さんに行って、靭帯の損傷もあるかなというようなけががあったということです。

砂場は穴ぼこもあいているようなところなので、この対策はなかなか難しいです。スタッフが疲れていたかなとか、シフトが無理ではなかったかなとか、そのようなあたりを考えています。そういうのが対策点というところですよ。

3点目の不審者訓練についてですが、今回の防犯訓練は、ひろばと保育と合同で、ひろばの玄関から不審者が入ってきましたという設定で始めました。不審者が来た場合に、合い言葉があるので、それでひろばの親子を保育室のほうに誘導して、外に逃がす。それから不審者に対しては、複数のスタッフで声をかけて、警察に電話して、来るまでの5分間、何とか持ちこたえるというような訓練です。こちらにネットランチャーとかもあるので、それを持ちながらも対応するというような訓練になっています。

あと、不審者に対しての考え方ですが、不審者かどうかを見極めるのが難しい。ひろばはオープンなところで、不審者と決めると、感じが悪い施設になってしまうので、声かけが一番大事だねというところですよ。

実際に保育室の公園の門から男の方が入っていらして、何だろうというふうに保育士が慌てて行ったら、どうもひろばにお孫さんを連れてきたおじいさんで、ひろばのお子さんが保育室のおもちゃを取りたくて入ろうとしていたところだったそうです。話をしてわかったので、ひろばのおもちゃ、砂場のおもちゃはこちらですみたいな誘導をしたことがありました。

実際にそういうようなところで話をしてみて、まずは対応なのかな。本当にナイフを持ってきて、ガーッと入られた場合には、もうどうしようもないので、みんなで逃げるということになるんですけども、そういうことがないように、ソフト面で周りに、ここには入りにくいよという地域を感じを出すというところかなと思っています。

【委員】

私は令和4年度予算に関して1つお聞きいたします。資料で申し上げますと、資料6の5ページになります。

コロナ禍で、スタッフの給与について、小規模保育のほうが、令和3年度見通しに比べて300万ぐらい減少させていらっしゃいます。2,700万ぐらいと計算されていて、「キャリ

アアップ補助金等を見込まず」と書かれております。収入のほうも600万ぐらい少なく計上されているのですが、もしこの補助金がなければスタッフを維持できないのではないかなと思うのですけれども、ここはどういうふうなお考えでいらっしゃるのでしょうか。

【いずみの会】

ここに書きました人件費はいわゆるトントンです。ですから、処遇改善ができないという数字です。

【委員】

小規模保育は令和3年度で3,000万ですよね。それが令和4年度は2,700万です。300万減るという予算です。これだと職員を1人以上減らさないとやっていけない。

【いずみの会】

2,700万の中には1人の人件費はもう入れておりますので、小規模保育の3,000万には全ての処遇改善費用が入っています。全部の費用が入っていますので、人件費が膨らんでいます。ですから、その膨らんだ見通しの数字と、令和4年度は国の予算の処遇改善の費用を見込むことができません。確定値をいただけていないので、全く入れてありません。

【委員】

そうすると、処遇改善の分だけ賃金が下がるということですか。

【いずみの会】

そうですね。ですから、処遇改善の入った令和3年度の見通しと、処遇改善の数字をいただけていませんので、人件費だけで組んだ令和4年度の見通しは、当然違ってくるといことなんですね。そういった意味では、アンバランスなんですけど、ここは数字としていじくれないものですから、そのまま計算をいたしました。

【委員】

では、職員にとっては、その分、給料が減るということですよ。

【いずみの会】

いえ、処遇改善の分は減ります。それは給与ではなくて、処遇改善です。要するに、プラス・アルファですね。

【委員】

それは給与として払っているのではないんですか。

【いずみの会】

給与は払います。ですから、計算できる給料と、全く計算できない国からいただくもの

と、2種類に分けまして、国からいただくものが入っていませんということです。

【委員】

処遇改善というのは一時的なものなんですか。

【いずみの会】

一時金です。

【委員】

今、経済界にも賃金を3%上げろと、政府が言っていますけれども、そういうものは入っていないのですか。

【いずみの会】

3%は実は入っているのです。それは4月から9月だけです。10月以降はありません。この中には4月から9月は入っております。

【委員】

年間では入っていないのですか。

【いずみの会】

1人頭9,000円です。ただ、全体の9,000円ですから、非常に微々たるものです。今年度配りましたキャリアアップ補助金とか、それから比べたら雲泥の差なものですから、結果的にはこの数字の差が出てしまうのですね。

【委員】

今年の見込みというのはどうなんですか。市に聞いたほうがいいかもしれませんけど。

【いずみの会】

それは我々が勝手に見込めないものですから、確定値をいただいてから入れようと思っております。

【委員】

市のほうは何か情報をお持ちですか。市のほうにお聞きしたほうがいいかもしれません。部長はもし何か情報があれば教えてください。

【委員】

事務局に担当の子ども育成課長がいますので、吉田課長のほうから説明させます。

【子ども育成課長】

子ども育成課長の吉田でございます。

処遇改善につきましては、来年度もこれまでと同様行う予定になってございます。

あと、プラス・アルファとして、皆さんご存じかとは思いますが、保育士等の処遇改善を行うということで、今年の2月から9月まで、いわゆる3%の処遇改善の補助金がつくことになってございますので、それを活用していただけたらと思っております。

また、10月以降は、公定価格とあって、単価のほうに含まれてきます。

10月以降の対応については、まだ国から具体的なことが示されておりませんので、現段階では詳細をお答えすることが難しいのですが、そのような形で従前の処遇改善プラスいわゆる3%の処遇改善というのが利用できるような形になってございます。あとは、そうしたものを予算にどうやって反映させて記載するかというような問題かなというふうに思っております。

【委員】

そうすると、確率的にはかなり期待できるということになりますね。

【いずみの会】

いただいた補助金は全部職員に配りますので、いわゆる収支には全く影響ないのですね。非常にアンバランスな数字になってしまっておりますが、確定値が出ていませんので、入れてないというところです。

【委員】

わかりました。ありがとうございました。

【委員】

本当に丁寧にいろいろ勉強されて、それを実践に移しているというすばらしいひろばだなと、お話を伺っていつも思っています。

ボランティアさんにコロナ禍でも随分ご協力いただいていると思うのですが、ボランティアさんだけに、お返しできるものがなくて、なかなか難しいかもしれないのですが、ボランティアさんが続けて誇らしく思えるような、何かそういう感謝のつどいと言ったら変ですが、時期が時期だから、エリアによっては、お招きして、お茶を飲んだり、感謝の手紙とか、いろいろやるところはあると思います。

飲食はできないにしても、ボランティアさんに対して、それは見返りを求めないでやることではあるとは思いますが、何か取り組まれていることはありますか。見た感じでは、それに関する予算が全然ないと思っておりますが、逆に郵送料とか、例えばマスクやアルコールの配布とか、そういった何かがあるのかなと思ってお伺いしたかったのです。質問になっているかわからないですけど、お願いできますか。

【いずみの会】

まず具体的な謝礼としては、その内容によってですけれども、図書カードを差し上げたりすることはあります。

あとは、コロナ禍で実際に来ていただくのがとても難しく、例えばコンサートとか、そういうときにお招きしたりすることができればいいなとは思っているのですが。

あと、実際できなくなってしまったのですけれども、今月予定していた「昔遊びの会」みたいなところは、近所のおじいちゃま、おばあちゃまたちが、自分たちも遊びに来るのが楽しみということで、そういうところにご招待するみたいな形で本当はやりたかったなというところなんです。どういうふうに戻元していったらいいかというのをもう少し考えていきたいと思います。

【委員】

その部分でどうしても気持ちが離れてしまったり、私たちも不全感を感じることもきっとあると思うので、別に金品で返すとか、そういうことを言いたかったわけではないのですけれども、何かつながりを持ち続ける工夫とか、ぜひまたしていただけたらと思いました。

【委員】

先ほど保護者との面談はオンラインでしたか、人数を減らしてでしたか、されたというふうには伺ったのですけれども、コロナ禍なので、多分保育の様子を見たり、そういうのができていないのではないかなと思いました。なので、写真を見せていただいて、お子さんの様子を保護者の方などと共有したということだったのですが、公園もありますので、お外で遊ぶ様子を参観するというのは今後されるのかなということをお伺いします。

あと、特別支援の勉強会というのが幾つかお話があったので、保護者の方とか、保育・養育される方の中ですごく需要があるのかなと思うのですが、それについては、オンラインで聞きたい保護者さんも聞けるなど、とても貴重な勉強会だなとも思ったので、地域の私も聞きたいと思うくらいなんです。せっかくの勉強会なので、その場で終わらないで、残せる形とか、次の会で、前のお話が知りたければ、資料が見られるとか、そういう対応ができるといいのかなと感じました。

【いずみの会】

ここには書いていないのですけれども、保護者に向けての参観はやりました。ちょうど感染が落ちてきた時期、10月、11月ぐらいにワッと落ちてきたので、今だと思って、

1家庭1人だけということで入っていただきました。外もそうですが、部屋の中も廊下のほうから食べる様子を見てもらったりして、それで面談するというのをワンセットで、どの家庭も全部参観することができました。

保護者会は、たくさん集まってしまうので、オンラインとかになってくるのですけれども、両方併用でやっています。

特別支援教育についてですが、保護者の方も聞けたらいいというのは、本当にそうだなと思いましたので、何かいい形でつなげたいと思います。またスタッフも、「前回勉強になったからもっと知りたい」というような声も、アンケートに何人か載っていたりしました。自分たち大人にとってもいいですし、子どもにとってもいいことだなと思いますので、何かいい形でつなげていけたらなと思います。

【副委員長】

状況に即して、親子に向き合っているいろいろな活動をされているなとすごく感じました。いろいろな情報発信を工夫されたり、いろいろな企画を考えられて、職場体験ができない中学校にわざわざ関先生が行かれて、講話をされたり、いろいろな取り組みをされているなと思いました。何よりも子どもの経験そのものを記録されたり、育ちを読み取ったり、保育の質の向上の充実を図っているというところは本当に素晴らしいと思いました。

先ほど上田先生からも、職場の中での雰囲気づくりとか、関係づくりというようなところにも配慮されているということがあったかと思うのですが、職員のやりがいというか、すごくいろいろにご配慮されてやっている中で、もしかしたら、どこかにしわ寄せとか、無理がいつてないのかなと感じたのですけれども、そのあたりはいかがでしょうか。実際に調査とかはされていないと思うので、わからないところもあるかと思うのですけれども、面談もされているということでしたので。

【いずみの会】

今年度の面談はこれからなんです。なので、何が来るかなと思ってちょっとドキドキしているのですけれども、何か意見とか疑問があったら、何でも私が聞きますが、なるべくそれをみんなでシェアしていく。ミーティングは毎月やっていますので、そういったところで、できればその方にも話してもらって、みんなで考えていこうというような流れはできているかなとは思っています。

働き方としては、ひろばは1カ月ごとにシフトが出るのですけれども、一時預かりは、毎週毎週、自分ができる分だけマルをつけるみたいな形でやっていますので、無理だった

ら休んでみたいな、その辺の体力的なところとか精神的なところというのは割と自由です。月に1～2回しか入らない人もいますし、毎日のように入る人もいたりして、そういうスタッフで一時預かりをやっています。月に1～2回の頻度のスタッフも、ミーティングには出ていまして、ミーティングは楽しくやろうという形でやっていますので、みんな一応は参加したいなと思ってきているのではないかなと思っています。

【副委員長】

私は今日久しぶりに委員会に参加させていただきました。オンラインだからなのか、上田先生や関先生がすごく生き生きとされている感じを受け取ったんですね。活動そのものもすごく充実されていますし、本当に地域に根差して頑張っているものが、もしどこかにしわ寄せみたいなのがあると、継続可能性というのがなかなか難しくなってくるのかなと思って伺いました。

1点だけ簡単に教えていただきたいのですが、盗難があつて、防犯カメラを増設させて、死角がなくなったというご回答だったと思うのですが、この点、現状について、どうなったかということだけ確認させていただけますか。

【いずみの会】

増設してからは、今のところ特に問題は上がってきていません。2回続けてあつたということが、ちょっと怖いねという話でした。2回ともカメラの死角だったので、そこは埋めていただきたいということで、市のほうに話しまして、すぐに対応はできたので、よかったなと思っています。

【委員長】

最後に私も質問させてください。

本当に丁寧にまとめていただき、コロナ禍の大変な状況の中でも、家庭の様子であったり、お子さんの様子だったり踏まえて、さまざまなことを展開されていることに本当に頭が下がる思いです。

コロナ禍が、私たちもいつ終わるんだろうというような気分になりますけれども、今日お話くださったように、コロナ禍で、家族の様子だったり、子育ての仕方が変わってきているということであれば、そこに対して、いろいろなことをしっかりとされていきたいと思ってくださっていることがすごくよく伝わりました。

ただ、この状況で見えない中で、可能なところから復活させたいというようなこともあるのですが、見通しが持てない中で、ここだけはとにかくしっかりやっていきたい

というポイントみたいなものがあれば、教えてください。

【いずみの会】

今検討しているのですが、4月からは0歳、1歳の食事の時間を復活させようと思っています。まだはっきり決まってないので、何とも言えないのですが、ふと考えると、0歳、1歳さんはマスクをしていなくて、ひろばで泣いたり、そういう大きな声で元気になっているのですが、それと食事をするのがどう違うのだろうかという疑問が湧きました。一時的なことで、一律に食事・飲食、一切合財禁止みたいな形になってしまいましたが、これだけ長く続くと、離乳食講座の話もそうですけれども、みんな離乳食をちゃんとできているのかなというのが不安になったり、あと、見ればわかるようなことが、わかっていなかったりする。一緒に食事をするのがこれだけ大事だったんだと、最近すごく思っているのです。

具体的な話をすると、エピソードがたくさんあって、長くなってしまうのですが、おかゆなんです、うちの子は食べてくれなくて、ごはんが嫌いみたいなんですという話でした。でも、よくよく聞いてみたら、スプーンの1杯量がすごく多くて、1杯をパクッと食べたら、ベーツと出てしまっ、それを嫌いというふうに捉えていたり、えっ、それはどうなんだろうかみたいなことが起こっているのです。それは食べさせているところを見れば一目瞭然だったり、みんなほかの人たちがどんなふうに食べさせているのか見る機会というのがすごく大事です。

あとは、手でぐちゃぐちゃして、手づかみ食べの時期なんかは、お家でそれをやられると、すごくストレスになっているお母さんも多かったです。それだったら、ここに来て、みんなで笑いながら食べて、片づけもみんなですれば、ちょっとは気楽なのではないかとか、そういったようなことができるといいなと思っているので、その辺をちょっと考えたいと思っています。

もちろん大人とか、あと我慢ができる上のお子さんはちょっと遠慮していただいて、離乳食ですね、あとは1歳の最初のころみたいな、そのぐらいのところから時間を決めて、お食事タイムが復活できるといいなと思っています。

【委員長】

食事はすごく大事ですものね。またぜひ取り組んでいただけたらと思います。

そうしましたら、時間もそろそろというところもありますので、このあたりで質疑を終了したいと思います。皆様よろしいでしょうか。

それでは、質疑を終了いたします。

いずみの会の皆様、今日は丁寧にご説明いただき、本当にありがとうございました。

では、退出ボタンを押していただいて、ご退出いただけたらと思います。

<いずみの会退室>

【委員長】

それでは、少し質疑の時間が延びてしまったのですが、いずみの会の説明、質疑応答を踏まえまして、審議に入りたいと思います。

補助事業が適切に実施されているか否か、また事業計画は妥当か否かという観点から、ご意見をいただけたらと思います。

また、必要な意見を付すべきかどうかということについても、ご審議いただけたらと思います。

ご意見のある方、挙手をお願いいたします。

【委員】

私は今回すすくすく泉さんに言うことは全然ないなと実は思っていて、本当によくやってくださっていますと私が言うのも変なんですけど、素晴らしいなと思っています。

市の応援体制のところのお話だけ少し伺えたらなと思っています。防犯のところなどはきっと相談に乗ってくださっていたと思うのですが、担当課がここにどんなふうに寄り添って一緒にやるかというところだけお話を伺いたいなと思います。中身とちょっと違うかもしれないのですが、よろしいでしょうか。

【事務局】

市のほうでは、今年から包括支援センターの体制をとりまして、子ども家庭支援センターのほうにも保健師を配置しました。先ほどいずみの会さんからもありましたけれども、保健師のほうがお伺いして、お話を聞く。専門職である保健師が話を聞くということも始めたところです。

来年度につきましては、特別支援だったり、発達についての事業に関しては、その部分について、新たに補助金のほうも、その事業計画に基づいて出す予定であります。

施設についても、防犯カメラであったり、デッキのほうの修理であったり、そういうところは、希望があれば、できる範囲のところですぐに対処しているところです。

【委員】

専門職の方がこういった現場に入るのにはすごくコツが必要です。やはり持っていかれ

るといふか、身近な場所なただけけれども、専門職がいることで、もう保健師さんをお願いしますみたいになつたりする。どこに懐いてもらうかということはずごく大事です。その地域とか身近な場所に懐いてほしいのに、専門職に懐かれると、みんなは下々の者みたいになってしまうので、とても注意が必要で、専門職の方にかかわっていただきたいと思っています。それがアダになることもたくさんあると思っています。いずみの会の方たちが、循環して、次の人たちのためにと思えるような市民に育ててほしいと言っていたというところをかつさらうことにもなります。

そこはもちろん安心感があるのですけれども、むしろバックアップ体制として、保健師さんたちが、この緊張感の中でやっていらっしゃるスタッフの方たちをバックアップしていく。また、その人たちの気持ちをメンタルヘルス的に支えていただく。そういったことも役割の一つとして入っていただけると、後ろから大きく包むように市の方がいてくださるといいなとすごく思います。地域の場に保健師さんがなかなか来てくれないので、それはすばらしいことだと思います。

あと、その保健師さんが、今度は地区担当の人たちと何か違うふうにならないように、孤立しないように、その方と地区担当の人たちが連携できるようにというところを、ぜひ応援していただけるとうれしいなと思いました。

【委員長】

ほかの委員の皆様、いかがでしょうか。——よろしいですか。

そうしましたら、今回、意見については特になしということでもよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

【委員長】

ありがとうございます。

それでは、委員会の意見として、次のようにまとめたいと思います。

「令和3年度において事業計画に基づいた事業を実施していること及び令和4年度について妥当な事業計画が立てられていることを確認した」ということでいかがでしょうか。保育人材に関しては、去年出ていたのですけれども、今年3人の方が入ってくださって、また保育士のほうも採ってくださった方がいるということなので、そちらのほうは、今年度は入れなくても大丈夫かと思うのですが、よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

【委員長】

ありがとうございます。

続きまして、次回委員会の開催時期ですが、今回は令和5年の3月ごろに、その時点での現年度実績と、次年度計画の評価をあわせて行いたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

それでは、次回、1年後になりますけれども、令和5年の3月ごろの開催とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

3 その他

【委員長】

以上をもちまして、審議が終わりました。

閉会に当たり、事務局のほうから連絡事項をお願いいたします。

【事務局】

それでは、事務局から報告及び連絡事項がございます。

まず、団体に対する監査の実施と結果に関する報告です。令和3年9月から令和4年2月にかけて、令和2年度中の特定非営利活動法人いずみの会における出納その他の事務執行に係る監査が実施されました。

監査の結果、おおむね適正かつ効率的に執行されていることが認められましたが、書類の記載漏れ、記載誤り等について、一部指摘を受けましたので、団体に通知するとともに、今後の執行において適切な対応を確認いたしました。

次に、連絡事項です。

本日の議事要録につきましては、でき次第、本会の開催通知と同じご連絡先にEメールでお送りいたします。内容をご確認いただき、ご自身の発言など修正すべき点があれば、事務局までメールにてご連絡ください。修正を反映した後に、市のホームページで公表いたします。よろしくお願いいたします。

また、以前ご提出いただいております「連絡先届書」と「口座振込届書」の連絡先に、今後の会議の案内をさせていただくとともに、会議の報酬については指定の口座に後日振り込ませていただきます。

最後に、この会議に関しまして、何かございましたら、子ども家庭部子ども子育て支援課まで問い合わせをお願いいたします。

以上です。

4 閉 会

【委員長】

それでは、以上をもちまして本日のすくすく泉事業採択・評価委員会の会議を終了したいと思います。皆様、お疲れさまでした。

以上